

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 低侵襲手術におけるレミマゾラムを中心とした全身麻酔が循環動態に与える影響

研究の目的

2020年にレミマゾラムが日本で承認されるまでは、当院ではプロポフォールを中心とした全身麻酔を行ってきました。健常成人ではレミマゾラムはプロポフォールに比べて麻酔中の血圧が下がりにくい特徴がありますが、胸部大動脈瘤や腹部大動脈瘤、大動脈弁狭窄症に対し経カテーテル的治療を受ける並存疾患の多い高齢患者の循環動態に与える影響は明らかになっていません。本研究ではレミマゾラムが従来用いていたプロポフォールと比較して、上記手術において血圧低下をきたす頻度が低いかどうかを検討します。

研究実施期間： 2022年 10月 21日 ～ 2023年 9月 30日
(倫理委員会承認日)

対象となる方： 2019年11月5日～2022年8月9日までの間に当院にて胸部大動脈瘤や腹部大動脈瘤、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的治療を受けた65歳以上の方

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

当院のカルテに記録されている情報のうち、性別、年齢、身長、体重、既往歴、内服薬、手術の種類、手術時間、麻酔時間、麻酔方法、手術中のバイタルサイン、昇圧薬の使用量、輸液量、尿量、周術期の血液ガス検査、末梢血検査、ICU滞在期間、入院期間、術後合併症などについて、標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、患者様をレミマゾラムを中心とした麻酔を受けた群とプロポフォールを中心とした全身麻酔を受けた群の2群に分け、麻酔導入後や手術中の血圧、心拍数、昇圧薬の使用量を統計解析的に比較することで、レミマゾラムによる麻酔がプロポフォールによる麻酔に比べ血圧を下げにくいかどうかを検討しようと思います。さらには大動脈弁狭窄症に対する治療を受けた患者様と大動脈瘤に対する治療を受けた患者様のグループに分けて上記と同様の解析を行います。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	麻酔科・竹川大貴 0172-39-5113/takekawa@hirosaki-u.ac.jp
--------------	---